

景気の底打ちと中長期的な加速への期待が高まるメキシコ

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

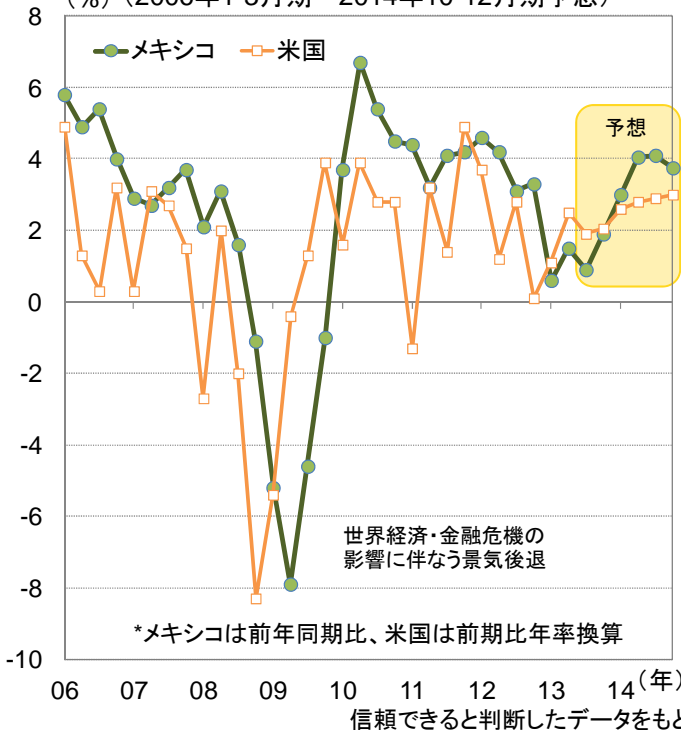
メキシコは、2010年から12年にかけて比較的高い経済成長を記録したものの、13年は成長率が+1%台にとどまる見通しです。ただし、成長鈍化の主な理由は、12年12月の政権交代や、経済面で結びつきの強い米国の需要軟化という内外両要因によって、13年上半期の実績が低迷したことにより、市場はこれを織り込み済みとみられます。今後は、下半期以降の成長加速見通しに注目が集まると考えられます。

12年12月の政権交代は、公共投資の執行の遅れなどにつながりました。しかし、新政権が積極的なインフラ投資を掲げていることなどから、今後は公共投資の盛り返しが期待されます。また、米国景気は緩やかな拡大を続けているものの、その中心がこれまでは住宅の回復だったため、メキシコへの恩恵は限定的でした。しかし、足元では自動車の需要増加の兆候が見られ始めており、回復の幅が広がるに連れ、メキシコへの恩恵も拡大すると見込まれます。なお、四半期ベースのGDPを見ると、米国は12年10-12月期、メキシコは13年1-3月期を底に伸びが高まる見通しです。こうした景気加速の確度が上がるに連れ、両国への注目が高まることでしょう。(米国では今月7日、メキシコでは21日に7-9月期GDPが発表される予定)

さらに、新政権が推し進めている構造改革は、海外からの投資の活発化などを通じて、メキシコの中長期の成長ペースを大きく押し上げると期待されます。重要課題の1つである財政改革案が10月末に議会を通過したことから、新政権は今後、もう一つの重要課題であるエネルギー改革の実現に向けて注力するとみられます。

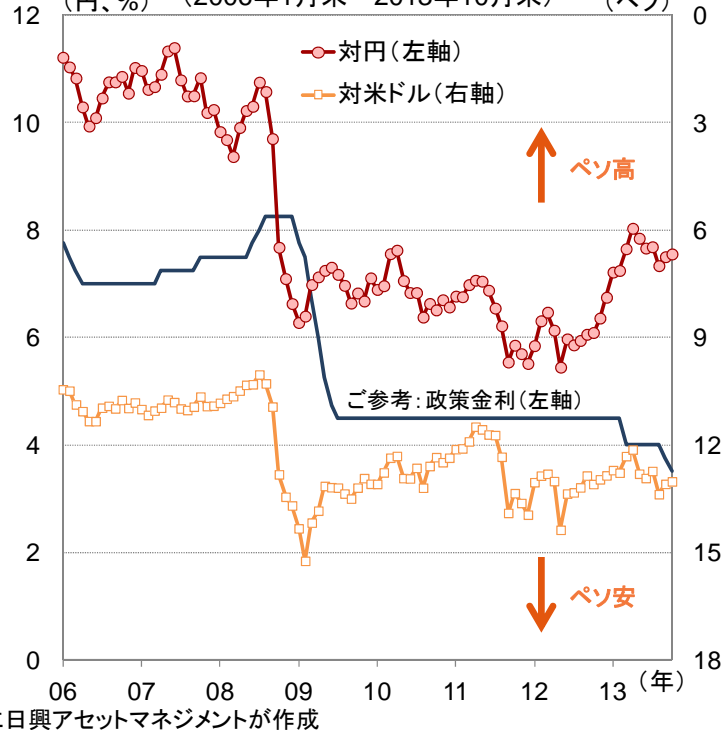
メキシコおよび米国のGDP成長率*の推移

(%) (2006年1-3月期～2014年10-12月期予想)



メキシコ・ペソの推移

(円、%) (2006年1月末～2013年10月末) (ペソ)



※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。